

令和3年度

第2回札幌市市民活動サポートセンター運営協議会

<議事録概要>

日 時： 令和4年2月25日（金）
18：00～19：30
会 場： オンライン開催

1 出席者

- (1) 委員：松田 剛史委員（藤女子大学 人間生活学部准教授）
今野 佑一郎委員（NPOのための弁護士ネットワーク）
宮本 奏委員（NPO ファシリテーション きたのわ）
竹次 奈映委員（一般社団法人北海道ブックシェアリング）
水谷 あゆみ委員（NPO 法人 ezorock）
高橋 銀司委員（一般社団法人福祉システム北海道）
- (2) 札幌市：市民文化局市民自治推進室市民活動促進担当課係課長
(3) 事務局：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会 スタッフ5名

2 開会 札幌エルプラザ公共4施設館長挨拶（下川原館長）

3 議事

(1) 令和3年度7月以降の運営及び施設の利用状況について

◇利用状況報告◇

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により感染対策措置の発令により1年のうち4分の1ぐらいは休館していたような状況であった。
- ・感染予防策を万全に整え運営することで、サポートセンター内で感染があったという報告はなく、できる限りの対策をした上で運営をできたと評価できる。
- ・利用人数については、大幅に減少し、令和3年度は、令和元年度から5分の3ぐらいいままでにあった令和2年度よりもさらに減っている。
- ・対面での打合せが大幅に減少し、Zoomを使った打合せが増えてきた。
- ・まん延防止や緊急事態宣言が発出されるたびに自発的に活動を休止する団体も当初に比べて非常に多く、対面するコーナーを多く設けている施設設計が、今後は新たな中間支援の形を考えていく必要がある。
- ・相談件数に関してはそれほど減少せず、活動のスタートアップに関する相談については昨年度と変化はない。

◇事業報告◇

《NPOインターンシップ》

- ・募集定員に達し、オリエンテーションを経て活動を開始することができ、ニーズの高さを感じた。
- ・対面での活動に制限がある中、オンラインもうまく活用しての実施となった。

《しみさぼフォーラム》

- ・第1弾「NPO×団体のカタチ～ロールモデル座談会～」（オンライン配信）

NPO法人、一般社団法人あるいは任意団体として活動されているそれぞれの立場から、団体の形式を決めた理由や、そのメリットやデメリットについて実際の活動経験の中からお話しいただいた。

・第2弾は「社会を変える組織のつくり方」としてフェンドレイジング等のコンサルタントを講師に迎え、団体運営の基礎となる六つのステップをお話しいただき、NPOや非営利組織の運営について必要な考え方を学ぶことができた。

《設立講座》

オンラインと対面のハイブリッドで法人設立を検討している人に向けた設立講座を実施。実際に活動されている方に触れることで、どのように活動を進めていくのかをつかんでいた様子だった。

《人材養成講座》

オンラインにて実施。オンラインに特化した会議の進め方をご教授いただき、ごコロナ禍により急速に増えてきたオンライン会議に対応したものとなり、参加者から高評価をいただいた。

(2) 令和4年度事業計画について

《ホームページの整備》

直接来ることができなくなった方も多いため、そういう方にも情報を届けるための整備と市民活動サポートセンターを活用していただくためにどういった情報をどのような階層で並べて出していくのが正しいのかを外部の有識者の方にも伺いながら進めていきたい。

《掲示コーナーの整備》

情報提供によりステップアップにつながる掲示コーナーの整備を検討中。団体だけではなく、市民活動サポートセンターに来た個人の方と団体、個人と個人をマッチングさせる掲示ボードを設置予定。

《スタートアップ支援講座》

法人設立の部分などは動画配信を主として、団体の協力を得たコンテンツということで進めていき、それぞれの団体の得意な部分で力を貸していただける仕組み作りや法人を後ろから支えていけるような事業を検討している。

《次世代向け市民活動促進サポート》

NPO インターンシップについては、大学の授業の一環で活用していただけないかと考えており、学校側との連携についても考えていく予定。

《人材養成事業》

組織運営について一通り学んでいただいた後、伴走支援型の講座を検討中。例えば助成金の取得など、一定の目標を定めた上で、それを希望する団体と定期的に講座で進捗を確認して進めていくというようなものにつなげていきたい。

(3) その他 意見交換

《マッチングボードについて》

・一周回って新しいという言葉もあるように、若い人たちには新鮮に見え、広まるといいのではないかと。とても有意義な活動の一つなのかなと思った。

・いい試みだなと思い聞いていたが、マッチングボードというものと掲示板は機能が違うような気がする。

マッチングボードは、たしか、同じようなサイズの紙か何かを書いて張ってあり、掲示板はフリーに書けるので自由度が割と高い。そのどちらの要素を強くするかでまた変わってくるのかなと思った。

- ・マッチングしたことをマネジメントすることで実績として残していく必要があると思う。
- ・マッチングがなされ、何かの事業展開がされることで設置したことの効果がわかると思う。それが分からないのはもったいないなという気がするため何か工夫が必要ではないか。
- ・これは手間がかかる紙とオンラインやウェブの便利さも生かすことはできないか。
- ・難しいと思うが企業と市民活動がマッチングすることも必要な視点なのかなと感じた。
- ・どれぐらい掲示しておくか、団体がどういった目的を持って示すか、どの程度分かりやすく示せるかが難しいと思う。どのくらいマッチング支援するかはこれから考えなければいけないのかと思う。
- ・スタッフとしてきっかけをつくるのが難しいので、そうした役割考えてもいいのかなと思った。
- ・活用の仕方について、載せるほうも考えなければいけないですし、見るほうも何かやってみようにつながる項目が載せられるといい。
- ・課題感や社会への不満が活動の原動力となるということがあると思っていて、不満や不安、課題感のシェアや、そこから何か生まれるところをつくっていきたいと思いつている部分があるので、マッチングボードで何かが生まれる場になるといいなと思った。
- ・まちづくりにおいて、多様な主体がいかにコミュニケーションを取ってネットワーキングをしていくのが大事だと思うので、マッチングボードは非常にアイデアだと思う。

《その他全体をとおして》

- ・市民活動サポートセンターは交流がメインにつくられているとなる中で、コロナ禍において中間支援センターの交流の場が今後どうなっていくといいのかを考えていた。
- ・チ・カ・ホでのイベントで知り合い、ボランティア参加というパターンがコロナ禍前多かったが、今はホームページ等が多くなり、ファーストコンタクトがネット上になってきていることから、ファーストコンタクトで来た人のニーズを整理した上でコンテンツ充実やその後の維持管理、ブラッシュアップを引き続きやっていただきたい。
- ・単発のイベントなど、それきりとなってしまうのがもったいないので、次につながるような事業の見せ方とする工夫ができればいいのではないかな。
- ・事業においてどの段階をメインにするか、外部にどうアプローチするかを明確にしておくことで次につながるのではないかな。
- ・伴走支援は一つ一つをつなげて示せると令和4年度の事業計画が生きてくるかなと感じた。参加者のつながりや見せ方についてもそういったところでつながるのではないかな。
- ・NPOインターンシップは、毎年ブラッシュアップされすごくいい取組だと思う。
- ・相談の件数について税務会計は令和3年度が5回また、法律相談については1回ということだが、ニーズがないわけではなく、認知をどう高めるのかということが課題ではないかな。
- ・ホームページの大がかりなブラッシュアップはもちろんご検討をいただきたい。簡単な階層の整理で解決できる場所もあるのではないかな。
- ・NPOインターンシップについて、学生自身が作ったものが残り、世に出ているということは大事な学びの場になると思う。単なるアウトソーシングではなく、学びとしてつながっている仕組みづくりがなされているのであればいい。
- ・今年10月から施行される労働者協同組合法の動きが新しい法人格の相談やNPO

法人との違いはなにかという形で相談窓口に来る流れになるのではないかと、1つのテーマとして勉強することが必要かと思う。

・ホームページを含めた広報について、必ずしもNPOのためにNPOを教えるというだけではなく、営利企業、非営利企業を問わず、社会的活動が地域にあるということを知ってもらう場になると活用の幅は広がり、お金の動き方も見えてくると思う。そしてお金が動く活動も新しいことにチャレンジするきっかけになるのではないかと。

3 閉会

《札幌市市民文化局市民自治推進室市民活動促進担当課より挨拶》

本日は本当に活発な意見交換がされました。本質的なお話をされていて、実に意義のある時間だったと感じております。

市民活動というものは一人一人の人間の参加で成り立っています。札幌市役所だけでは札幌というまちを到底維持できません。札幌市は大きな仕組みを支えるというだけで、実際には一人一人の市民の皆さんが自分の身近なまちづくりに関わっていただいているからこそ札幌という大きなまちが成り立っていると考えております。

その中で、市民活動と呼ばれるNPOを中心とした任意団体によるまちづくり活動というところをどう支援していくのか、ここについては私も今以上にしっかりと考えていきたいと思っておりますし、担い手でもある公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会の皆様にもお力添えをいただければと思っております。また、市民の皆様や学識経験者の皆様、さらには、NPOの団体、実際に活動されている皆様からもいろいろな意見をいただきながら、まちづくりというものをブラッシュアップして、より輝くものにしていけたらなと思っております。そのお手伝いをできたらいいなと考えております。